

秀賞

未来の自分に向けて

青森県青森市立甲田中学校

2年 伊藤 千代

10年後の私へ

10年後の私は、きっと地元の青森県で小学校の教師になり、子どもたちと笑いながら一緒に勉強をしていると思います。今、14歳の私が考えていることを、この作文に書き記します。将来この作文を私が読み返した時、私自身の原点を思い出し、また前へ進む力に変えることを願って――。

「命」「夢」「絆」。

これは、私の母校である甲田中学校の教育目標です。私たち甲中生は、一人一人が命を大切にして夢に向かって挑戦し、仲間と共に絆を深める毎日になるよう、日々、勉強や部活動などに励んでいます。そんな中で私自身、小学校の教師になる夢の実現に挑んでいます。このように将来の夢が明確になったのは、小学校時代の恩師である担任の先生に出会ったことがきっかけでした。

小学校4年生までの私は、両親が小学校の教師だったこともあり、ただ漠然と「小学校の先生になってみたいなあ」と思っていました。しかし、5年生に進級し、卒業までの2年間を一緒に過ごした担任の先生との日々が私の考えをより明確にし、将来の夢に向けて強い力を引き出してくれたのです。

私たちが5年生に進級した年は、新型コロナウイルスの感染が広がり始めたあの時期で、新学期は、まさかの臨時休校。旧担任の先生とのお別れや、新しい担任の先生との対面がかなわない時でした。始業式もできないまま毎日が過ぎ、ようやく分散登校が始まり、私は新しい担任の先生と出会いました。毎日が不安な私たちを笑顔で迎えてくれたあの瞬間を、私は今でも鮮明に覚えています。先生は、私たちにこんなことを話してくださいました。

「先が見えないこんな時だからこそ、友達と協力して、一緒に考え、乗り越えていきましょう。」

私はこの時、いつでも先生や友達が自分の周りにいてくれること、自分一人では困難なことも、仲間となら乗り越えていけそうなことを感じ、未来への希望をもつことができたのです。

また、先生はいつも私たちを信じ、励まし温かく見守っていました。6年生の最後の運動会では、他のクラスに負けてばかりだった私たちを、

「大丈夫。最後まであきらめないよ。」

と励まし続け、私たちの本気を引き出してくださいました。結果は見事に優勝

し、クラス全員が団結することの素晴らしさを実感することができました。そして、一つの目標に向かって一生懸命頑張ることのできるクラスに成長したのです。

「先生がいることで安心できる。」

「先生がいることで毎日が楽しくなる。」

「先生がいることで一生懸命になれる。」

私は、先生のような教師になりたいと強く思い、将来の夢を実現させるために、今、頑張っているところです。目標とすることは決まったものの、私には越えていかなければならないハードルが幾つかあります。私は人前で話したり、積極的に立候補したりすることが少し苦手だということです。特に自分の考えに自信がもてない時は、消極的になってしまいます。また、小さい子の世話をしてあげることが少なく、子どもたち一人一人を育てる先生になれるかどうか、不安に思っています。その他、計画を立てても、なかなかそのとおりに進まず、作業に時間がかかってしまうという弱い点があります。

小学校の教師は、子どもたちの先頭に立ち、計画的に子どもたちを導き、一人一人のより良い成長を助けていく職業です。これらの課題をクリアしなければ、目標とする先生に近づくことはできません。しかし、人の性格は簡単に変わるものではありません。私は、あまりにも課題が大きいことに気づき、あきらめそうになったこともありました。しかし、そんな時に思い出したのが、

「大丈夫、最後まであきらめないよ。」

という先生の言葉でした。卒業してから私に響く言葉を教えてくれた先生に、とても感謝しています。この言葉を胸に、まずはできるところから、中学校での役割に挑戦してみたり、ボランティア活動に参加してみたりし、自分の課題を少しでも改善していけるように努力したいと思っています。卒業してからなかなか会えなくなりましたが、きっと先生も応援してくれているはずです。温かい心の糸で結ばれた関係をつくっていける、教師という職業に、私は必ず就きたいと思っています。

10年後の私は、どんな先生になっているのか、とても楽しみです。そして、この作文は14歳の私へと繋がるタイムマシンです。生涯この作文を私の原点として大切にします。